

[GRAPEVINE]

丹後国営農地開発事業について

丹波ワイン(株)

末 田 有

丹後国営農地開発事業は京都府北部丹後半島の1市6町に及ぶ農地開発事業で、計画では農地造成2,150ha 区画整理218ha それに伴うダム2カ所及び用水路、道路の整備等が含まれ総予算は約750億円になります。昭和58年に着手され本年はちょうど10年目になり現在計画の見直し時期でもありますが、平成3年度までに農地322ha(進捗率 約15%)、区画整理72ha(同 33%)が終わっており、平成5年度の予定では新たに305haの農地造成工事が継続され順調に進んでいるといえます。昭和60年に営農が開始され平成4年現在では約300人が285haで、葉タバコ81ha、飼料作物42ha その次に果樹41ha等が栽培され果樹の中でのブドウはまだあまり多くありません。

丹後の気候は典型的な日本海型気候で冬の降水量が多く春から秋までの降水量が少ないのが特徴です。また土壌は海岸線の隆起したところでは火山岩、あるいは安山岩の風化土で粘質土ですが、全体の7~8割は花崗岩風化土、一般に言うマサ土で、特徴は水はけがよく地力に乏しい反面肥料管理がしやすくしかも作業性の良い土壌です。これらの気候及び土壌の条件はブドウをはじめとする果樹全般においては好適といえると思います。事実、当地における果樹栽培の歴史は比較的長く、大正時代より桃の栽培がかなりあり、面積はあまり多くないのですがブドウも昭和20~30年代頃より栽培されています。

また国営農地では規模が大きくなるのにもない生食用以外に単位面積あたりの労働時間が少なくなる醸造用ブドウの栽培も注目されています。京都府丹後農業研究所では昭和62年よりワイン醸造に適する品種選定と栽培法の確立を目的に約20種類の醸造用ブドウ品種の栽培を行っており、当社でもそれらの試験醸造を行い協力しています。現在まである程度の品種の絞り込みができてはいるもののまだ農家への普及はされていません。国営農地への醸造用ブドウ導入にあたっては農家の経営面での安定、また規模の大きな栽培が予想されより省力化した栽培方法でしかも収量が一定レベル以上あげられさらに酒質の良い物が必要になり、慎重に進めなければならないと思います。

今日、地域性を重視したワイン造りが重要視されている中で丹後の醸造用ブドウの栽培が成功する事を期待するとともに、できる限りの協力をしていきたいと感じています。